

## 第8回国立市保育審議会会議録

日 時 平成22年3月17日(水) 午後7時～午後8時  
会 場 くにたち総合体育館 2階 第1・第2会議室  
出席委員 委員 9名  
内 容

- ・ 前回の会議録の確認
- ・ 国立市保育行政のあり方(これまでの議論を踏まえてのまとめ)

---

**【会 長】** それでは、第8回国立市保育審議会を開始したいと思う。

議事録は、前回はほんのわずかな間ということなので、まだ整っていないそうなので、これは追って、皆様方に郵送する、そして、直していただくということにさせていただきたい。

今日は最後になるわけであるが、前回いろいろとご意見をちょうだいして、それをできる限り組み入れる形で改めて答申の案を直して、ほんのわずかであるが、前もってお送りした。それについてまたご意見をちょうだいしたいと思う。ただ、今日でもあるし、それから、この場所は9時までには必ず終えなければいけないそうであるので、ぜひ協力いただきたいと思う。

簡単に重立った変更点だけ申し上げたいと思うが、1ページ。皆さんの白黒であるのか。真ん中辺に、前回ご指摘いただいたが、国立市の保育・幼児教育として大事にしたいこと4点を入れた文章を加えた。あと、細かいところは省くが、2ページだが、真ん中辺に、「憲法に従い」という文を入れてある。また、市内の私立幼稚園についての言及も多少書いてある。

それから、4ページの一番上のところで、幼稚園についての記述、これも前回言ったと思う。それから、4ページの一番下の部分、「国立として」云々、「国・都に対して」というあたりについての表現を載せてある。それから、5ページの真ん中辺であるが、国立市の保育環境等を大事にしたい、さまざまな意見がある、また、「児童福祉法の趣旨等を踏まえるべきである」というあたりを入れたものである。6ページであるが、真ん中辺で、認定こども園についての言及がいろいろあったわけであるが、いろいろなご意見をちょうだいしたので、両論併記だが、どちらかというところいろいろ不安があるという点を記した上で、現場おける工夫についての言及も入れさせていただいたということである。また、幼稚園型と幼保連携型と分けて書いてある。

それから、7ページだが、保育サービスの拡充のところ、これがいわゆる民営化については後の箇所に回したわけであるが、そこで、財政的な検討、推進について慎重な意見が多いという形にここではとどめてある。それから、今のところの最後のとこ

ろで、主として現場の状況把握が必要ではないかという意見を入れた。

項目の大きな3節という形で、以前は単に「その他」とあったと思うが、今回は「国立市の保育をめぐるその他の論点について」と記した上で、8ページだが、前のほうにあった文章を移すとともに、いろいろ、そこで文章のつじつまが合うように加えてある。特に8ページの真ん中辺で、前回も公立保育園を仮に民営化するというようなことがあった場合にいろいろな懸念、心配のご意見があったので、それを列記した。また、十分、調査・研究が要るということについて触れてある。その一方で、早くからの民営化にも意味があるということを残してあるが、しかし、それは決して民営化を前提としたということではなくて、万が一そういう場合についてという注記を入れた上で残してある。

それ以外、前のほうに移った部分は幾つか削除して、「その他」という形だが、保育園と幼稚園の定期的・継続的に協議する場、その他というのが、これはおおむね残った。「おわりに」というところは、多少日本語としての直しがあるが、おおむねもとの形である。それ以外に、前回申し上げたように、審議の日程、内容、委員の名簿、それから、その時々、特に基礎的資料、ほとんど、国立市における幼稚園・保育園等の現状とか、財政的な分析とかが見受けられるが、それが一つと、それから、以前ちよūdaitした、さまざまな答申へのご意見、また、公立保育園の役割等というようなところで一定のものを残すということになる。

一応、以上のようなことを考えて、答申案について、今、前もって話したので、ご意見をちよūdaitできればと思う。どこからでも結構である。ここを直すべきであるというようなところがあれば、願います。どなたからでも。

**【委員】** じゃあ、よろしいか。立場的に公立なので、どうしても公立から民営化という文章になると、「いずれにしても」と変えていただいたところがあるが。

**【会長】** 何ページか。

**【委員】** 8ページの「公立保育園の民営化については」という文章で、とてもよくできていると思うが、私たちが、公立の民営化についてはということ、一番最後の「聞き取りつつ、進めると等」と書かれると、民営化をすぐ進めるみたいはどうしてもとられてしまうので、できたら、「丁寧に聞き取るなど」ぐらいにしていだけたら、ちょっといいかなと思ったのだが。

**【会長】** 別に民営化をしようという前提で書いたつもりではないので……。

**【委員】** そういうふうに今、おっしゃっていただいたのでほっとしたのだが、ついちょっと……。

**【会長】** 「聞き取る等」。

**【委員】** 「聞き取るなど」とか、何かそういう形にしていだければ。

**【会長】** それは別にそれでいいと思う。すみません、単にこれは私の日本語のセンスの問題である。ほかに、どうか。

**【委員】** 大変うまくまとめていただいて大変感謝しているが、文章を読んで、ちよūdaitとうまくつながっていないなと考えているところがあるので、字句の修正みたいなことでご検討いただければと思う。

- 【会 長】 どうぞ。
- 【委 員】 まさに、公立保育園の民営化の前段、2段目のところの一番最後の文章が、意味がわかりにくい文章に。何かいろいろ書いたり、消したりしたので。
- 【会 長】 何度も直しているうちに。
- 【委 員】 1つの提案だが、「なお、民営化については早い段階から検討することで、市の財政からの要請が万一生まれる場合でも」、その後、ちょっとうまくつながらないので削除して、「場合でも、子どもが急激な変化にさらされずに済むのではないか」という指摘もありました」としていただくほうがすっきり読めるかなと。
- 【会 長】 じゃ、もう一度、私が言う。「なお、民営化については早い段階から検討することで、市の財政からの要請が万一生まれる場合に」か。
- 【委 員】 「場合でも」。
- 【会 長】 「場合でも、かえって……」。
- 【委 員】 「かえって」はもう。
- 【会 長】 要らないのか。
- 【委 員】 はい。「場合でも……」。
- 【会 長】 「場合でも、子どもが」というふうにつなげるということか。
- 【委 員】 はい。というほうが日本語として。
- 【会 長】 日本語としてそのとおりだと思うが。
- 【委 員】 「さらされずに済む」にしていだけると。
- 【会 長】 「さらされずに済む」。これについてはいろいろ反対意見があったので、次のように直して、大体。私としては、「万一」ということを強調しながらも、全く消すというのはちょっとご意見としてありましたのでまずいかなと思ひ、一応残してあるが。その辺はそのぐらいでいいか。
- 【委 員】 5ページの下から6行目、「また、私立園など特に老朽化した保育園が市内に多いことから、大規模な改修」と、私立園の例で私が申し上げた話がもともとそうだったのだが、でも、日本語を読んでいたときに、後から読んだら、「私立園など特に老朽化した」と見えてしまうので。
- 【会 長】 そうである。何か私立園がよくないみたいな感じで。
- 【委 員】 別に、「私立園など」と特に入れなくてもいいのかなと。
- 【会 長】 これはたしか、公立でもいろいろ改修の必要とか……。
- 【委 員】 老朽化はどちらでもあるので。
- 【会 長】 単に「私立園など」というのをとれば、それで意味は通じるか。
- 【委 員】 よく考えたら、そうだと。すみません。
- 【会 長】 そうである。すみません、前回そういうお話があった。じゃあ、その「私立園など」というのをちょっととろう。ほかに、いかがか。
- 【委 員】 ものすごくほんとうによくまとめていただいた、ほんとうにこれだけまとめていただいたので、ほとんどもう言うことはないという感じで、先ほどからの修正を受けてもう大体、すっきりしているので、そんなにないが、1つだけ、もしこの場で同意ができるようであればと思うところがあって、ちょっと思いついたのだが、8

ページの4番の丸のところだが、職員の雇用待遇についてということで、1文ある。

**【会 長】** ごめんなさい。ああ、8ページの一番下の丸か。失礼した。

**【委 員】** はい、8ページの一番下の文章である。ちょっと文脈的な流れを考えて、例えば4ページの(3)の国立市の保育のあり方についてというところがあるが、その3番目の段落の「保育の質とは」というふうに始まっているところがある。「保育の質とは、それぞれの施設の……」と。この段落の最後の「そのためには、保育に携わるすべての大人が最大限に努力し、相互に協力し、築き、蓄積し、守っていくよう努めなければなりません」というところに続いて、「また、子どもを扱うという特性上」というような形で、この文章を続けていくということではできないかなと。

**【会 長】** 8ページの雇用待遇の文をそのまま、そこに、4ページに移せるかということか。

**【委 員】** はい。これはちょっと厳しいのかもわからないが、ちょっと今ごろ言い出して申しわけないなと思うところはあるが、まさにここで、4ページの論旨の中で書いていただいているように、ほんとうに保育に携わるすべての大人が最大限に努力して、協力して、守っていくことが大事だと、まさにそのとおりだと。直接にはやっぱり親の責任でもあるし、また、行政として果たしていく責任もあるわけだが、やっぱり直接的に、保育ということで、子どもに直面して働いているのが、現場のスタッフの方たち、保育士さんとか、幼稚園教諭さんとか、あるいは調理師の方、看護師の方、そういった方々なんであると。だから、その方々が少しでも、安心できる環境でもって働いていけることをみんなで支えていけるということにするのは、ここの文脈からいってすごく重要なポイントで、もちろん今でもいろいろ努力はされていることは確かだが、より一層これを支えていくという観点、そこは言っていていいんじゃないかなと思う。

この審議会の中でも、特に臨時職員さんの待遇について、地方公務員法の縛りがあるということはあるが、募集になかなか人が集まらないぐらいのこともあると言われたこともあって、できるだけそういうところを働きやすくできる環境があれば、子どもとしても、保護者としても、社会としても、やっぱり安心できるということであれば、できれば、ここでこの文脈の中に盛っていいのではないかと。僕のほうから、修正、提案として今、出したいのはこれしかない。もし皆さんからのご同意をいただけるようであれば、ぜひそうしていただきたいなと。ほんとうに実際、僕自身も保育士さんたちに関しては、直接子どもを預けていって見ている中で、何かそういうふうなお願いというような感じもある。

**【会 長】** ありがとう。要するに、職員の雇用待遇の問題を保育の質の中に入れ込むという、そして、保育専門家として、「あり方」の中に位置づけると、そういう位置づけだね。

**【委 員】** そうである。

**【会 長】** それはごもっともな気もするが、よろしいか。

そうしたら、8ページの終わりの「職員の雇用待遇」という、この見出しはなくなるが、「子どもを扱うという特性上」という部分を前のほうに、前のほうというのは、4

ページの(3)の国立市の保育のあり方の第3段落の最後に移すと。よろしいか。そういうことだね。

意見が出された。その辺の、ちょっと微妙な文末はもしかしたら直すかもしれないが、趣旨はそういうふうにならんといたしたいと思う。

**【委員】** もし入れていただくならどうかというところが、「非常勤に職員について」を「希望する非常勤職員について」とか、それが適切な言葉かどうか分からないが。

**【会長】** 「希望する」？

**【委員】** 中には、パートのほうがいいと。(笑) いろいろ、市として絶対に……、もちろん市の保育園にあって、嘱託さんでそれを希望していても、なかなかない。3年たっても、すごく優秀なのに、なかなか制度としては正規には登用されないという一方で、我々は非常勤は正規に登用していくというシステムを持っているんだが、だから、必ずそうなるということであると、またそれはそれでなりたくない人もいたりして……。

**【会長】** まあ、なりたくないというのか……。

**【委員】** ちょっと細かいことであるが、全部そうすべきだということだけでなく、それはあってもいいのかなと。

**【会長】** はいはい。それでは、「非常勤職員について希望する……」。

**【委員】** 「希望する非常勤職員さん」というのはどうか。ちょっとおかしいか。(笑)

**【会長】** 何か非常に何ていうか、何となく。

**【委員】** まあ、いいか。まあ、いい。(笑) ちょっと日本語がおかしいから。

**【会長】** それから、安定した雇用待遇というのは別に、正規職員がもちろん一番安定しているが、そこまで具体的に、こういう保育審議会としては盛り込みにくいので。

**【委員】** 細かい話なので、やめる。ごめんなさい。

**【会長】** 具体的に、非常勤職員を正規雇用にするための交渉をここでする話ではないので、なるべく大まかなほうがいいと。

ほかに、いかがか。

**【委員】** 修正ではないが、中身の確認という形だが、4ページの「保育の質とは」と書かれているところの3行目の定義のこの中身だが、今のは、環境のことが言われているかなと思うが、環境の中身というのは、施設の基準だとか、そういうハード面じゃなくて、保育士と子どものかかわりとか、目に見えない部分の、それも保育の質になると思うが、そういう部分も含めてという環境をとということ……。

**【会長】** 「豊かな人間関係」というのでそれを入れたつもりだったが、読みにくい。読み取りにくい。もうちょっと書き込んでもいいか。

**【委員】** 環境というのは、そういうハード面を見てしまう部分が一般論かなと思っ  
て……。

**【会長】** 保育場と環境というときに、保育士と子どもの関係も入れているので、私はそう書いた。

**【委員】** 私にとってはそこが一番大事なことなのかなと思っていて、そういうもの

を含めてということと言っているということであればいいが。

【会 長】 具体的に提案していただければ、例えば。

【委 員】 それは特にいいんだが……。

【会 長】 いいのか。

【委 員】 その中身……。

【会 長】 「豊かな人間関係」という部分を、「保育士と子どもの何だかに基づく」とか、ちょっと入れようか。

【委 員】 そうである。「保育士と子どもの……」。

【会 長】 保育士ということはない。幼稚園も含むのだから、保育者か。

【委 員】 そうである。

【会 長】 保育者と。

【委 員】 もともとの意味でいえば、こここのところであろう。

【会 長】 どこに？

【委 員】 その後の文章。

【会 長】 その後、入れたか。

【事務局】 「そこではとりわけ……」。

【会 長】 あっ、そうだ。そうやって入れたんだ。「そこではとりわけ、専門性を高く保持し、研修に努める保育専門家としての保育者のかかわりが重要なものとなります」ということで、今のご指摘を入れたつもりだったのだが。

【委 員】 そういうことであれば。

【会 長】 よろしいか。

【委 員】 はい。

【会 長】 ほかにどうか、この際。

【委 員】 ほんとうに字句的なことで気がついたので。

【会 長】 ええ、もちろんそういうことも含めて。

【委 員】 「ホショウ」という字が幾つかあるので、どれが正しいかなと。8ページの……。

【会 長】 僕がワープロでミスしている可能性もある。

【委 員】 8ページの第3段の「一方で」から始まるところの5行目だが、ここで、「保障が必ずしも考えてにくい」というのが、これは……。

【会 長】 これは僕が日本語力にちょっと自身がない。

【委 員】 ごんべんに正しい（証）というほうが……。

【会 長】 ごんべんという……、正しい気がする。

【委 員】 そのような気が。

【会 長】 意味的にそうである。

【委 員】 基本的にはそうである。

【委 員】 多分そんな……。

【会 長】 そうかな。多分そうだと。すみません。

【委 員】 それと、同じページの下から2つ目の丸の保育の内容について、上のとこ

ろの段だが、具体的に言うと、「保育園と幼稚園が定期的に」というところの、この最後の文章が「必要ではないでしょうか」というような、ほかと違うスタイルになっているので……。

**【会 長】** あっ、ほんとうだ。

**【委 員】** ここも同じスタイルに合わせたほうが。

**【会 長】** 「必要だという指摘がありました」とか「意見がありました」と。

**【委 員】** そうである。そのような形で。

**【会 長】** ちょっと待って。これは、すみません、慌てて書いているのであれなんですが、多分、「意見がありました」よりは強くしようとした。

**【委 員】** そうであるか。わかった。

**【会 長】** 私の記憶では、複数の方が賛成したので、「意見がありました」と言うと、1人の人でも言えば、意見があったわけだが、もうちょっと強く書きたかったんだが、「必要である」とは言えるかどうか自信がなかったのであるが、今、語尾としては何がいいか。

**【委 員】** こういうことであれば、「必要ではないかとの意見が多数挙げられました」とか、ほかの書き方に。

**【会 長】** じゃ、そんな感じにしたいと思う。すみません。日本語としてそう自信があるわけじゃない。ほんとうにもうぎりぎりの現状でやったから。

**【委 員】** 私もよく間違うので。

**【会 長】** ほかに何か。大丈夫か。今日は最後であるから、皆さんがこれでよしとなれば、早く終えて構わない。また、後で気づいて、出されるというのは不可能ではないと思うが、またややこしいことになる。皆さんにまた返すようなあれになるので、できればここで出して。

**【会 長】** そうしたら、今後と言ってももうほんとうにわずかな日数だが、今ご指摘いただいたところは直していただくことということにして、あとはもう直す気はないのだが、ほんとうに、てにをはとか、仮名が漢字とか、漢字が仮名とか、そういうのは役所の文章として何かあるだろうから、それ程度には直すことはあり得ると思う。あと、点が入るか入らないか、てにをはのたぐいは直すかもしれない。

あと、手順としては、それを直して、もう一度見てもらうほうがいいのか。どうすればいいか。あとはもう皆さんに読ませてしまっているのか、あるいは、私の、会長の責任なのか。手順が。

**【事務局】** 会長のほうで見ていただいて、その後、皆さんに配付して……。

**【会 長】** 最終チェックか。

**【事務局】** ええ。

**【会 長】** じゃあ、今、ご指摘いただいたことは確実に直すとして、それ以外は、てにをは以上の直しはしない方針のもとで、会長に、私にお任せいただいて。しかし、同時に、直したものはお返しというか、皆さんにお伝えして、確認はいただく。

事務的には、これをいつまでにこれを市長にお渡しするのか。

**【会 長】** これは市長さんにお渡しする。

**【事務局】** 水曜日なので、今週中には皆さんに見ていただいて、その確認がとれば、今週中ぐらい、遅くとも週末までにはという形で、何かあれば、来週。

**【会 長】** まあ、大丈夫であろう。はい、わかった。じゃ、手順としてはそういうことでよろしいか。じゃ、そういうことにしたいと思うが。

**【事務局】** 実際に、検討グループ会というものと市長が日程がとれるかどうかわからないので、一応、形的にも答申という形なので。

**【会 長】** あっ、そう。それは儀式とした？

**【事務局】** そうである。

**【会 長】** じゃあ、それは私がやればいい。

**【事務局】** ええ、できれば。

**【会 長】** この確認。この会を開くんじゃなくて、私が紙を渡すのか。

**【事務局】** そうである。

**【会 長】** じゃあ、それはぜひやらせていただく。

じゃ、そういうことで、今日、最終回なんだが、最終回なので、最後に一言二言、ご感想のようなこととか、あるいは審議会の答申は答申で決定だと思うが、もう少し広く、国立市の幼保にかかわる行政の皆さんなり、市長はここにいらっしやらないが、これを読むわけである。簡単にだが、おっしゃっていただくとありがたいと思うが、そのぐらいで終わってよろしいか。

**【委 員】** はい。ああ、どうも。いろいろとわからないことがいっぱい、しかもこの場で初めて聞くような言葉とか、あるいはお話なんかもたくさんある中で、この非常に短い期間の間に、会長も頑張っていただいて、一通りの答申ができたというのはとてもよかったというか、非常に安心している。皆さんに教えていただくこともすごく多くて、勉強が足りない中で、それでも何とか役割を果たそうと思って、自分なりに努力はした。

今回、これで一たん答申は終わりだが、一番、自分がこうあったらいいなと思っていた、連絡会のようなものが、ほんとうは次年度、その次の年度などに立ち上がると、私としてはすごくうれしいな、本望だなとも思っている。市民なので、また皆さんにお会いする機会がたくさんあると思うが、今後ともどうぞよろしく願います。ありがとう。

**【会 長】** ありがとう。

**【委 員】** 私もこの審議会に出てくるのに、とても緊張もしたし、こんなこと、できるかなと思って、出てきて、とても緊張する時間でもあったが、やはりやらせていただいて、とても勉強になったなと思っている。それで、国立市ではなかなか私立の保育園の園長さんたちと話すことも少ないし、幼稚園の方たちと話すことも少ない中では、こういう場があってほんとうによかったなと。これからほんとうに、おっしゃったように、ここをきっかけとして、横のつながりができていったらいいんじゃないか、一緒に考えていけたらいいなと思っているので、これからもぜひこういう機会があったらいいなと思っている。どうもありがとう。

**【委 員】** 12月からということで、突然ピンチヒッターになって、ずっと小学校の



ほうの教員をやっていたので、一番最初にも言ったが、校長になったら、もれなく幼稚園長がついてくるというような感じだったので、幼稚園の園長をやって3年目で、7割、8割方は小学校のほうの仕事の意識が強いものだから、ほんとうにこんなところにいていいのかなと思いがらいた。

先ほどもあったが、先生たちの待遇の問題とか、でも、実際問題、幼稚園のほうからいうと、P連のほうで市のほうに陳情するというか、お願いをしたり、何年も前に、1人当たり100円上がったとか200円上がったとか、100円もらってもどうにもならないよなと思いがら、そういう状況の中で、今、こういうお話を聞いていて、それができるといいなと。ほんとうにP連のお母さんたちが一生懸命訴えてもならないんだけど、こういう諮問が出て何らかで動くのかなという、何か幼稚園のお母さんたちの活動がかわいそうだなというような思いもするし、僕は別にお金が欲しいわけでもないが、実際に日本の先生たちの待遇がやはりあまりよくないなということ、それは考えないといけななと。

ここに限らず、うちの学校でも、私立の小学校でも、最近はお両親が働かれるということが多し、私自身もそうであるから、そうすると、学校が終わった後に、学童も含めて、子どもたちがどういうふうに過ごすのかというのはとても大事な部分だとも思うし、本来はこれが、1歳、0歳の子どもたちをどうやって保育園に入れて、保護者の雇用を確保するかという、保障するかというようなこともあったと思うんだが、もっともっと何か大きいところから見ないといけななと。それから、最後に書かれていた、「おわりに」のところの「知恵を集結する必要があります」というところが僕は心にすごく残って。先ほど会長も、だったら、代案を出してくれという、やっぱり代案を出していくというのがすごく大事で、代案が出せないで何か言っているとそれは単なる批判になってしまうから、そういうようなことをもっとしっかり考えていかないといけななと。どんなことでもそのところがこれから問われるのだなと、わずかだが、参加させていただいて、自分の反省を込めて、強く感じた。どうもありがとう。

**【会長】** どうもありがとう。

**【委員】** 私、いつも、園長会では、国と都の制度の変更を受けて、行政の皆さんと話して、それがすべてみたいな世界で当然話しているわけなんだが、こういうふうに、先ほど他の委員もおっしゃっていたように、公立さんや幼稚園の先生や、ここはどうなのかわからないが、いわゆる保育園や幼稚園にまだ入っていないという方とか、そういう方々、すべての小さな子どもを持つ方々の立場なども考えると、やっぱり私立の保育園だけでなく、少し広い立場でいろいろな問題を討議する機会がやっぱりすごく重要なんだなと考える。1年に一遍ぐらひは、先ほど答申の中にもあったが、何かそういう機会がまた持てたらうれしいなと考えている。どうもありがとう。

**【会長】** ありがとう。

**【委員】** 僕はほんとうに親としては1年生みたいなもので、なかばなりゆきのよな感じで、気がついたら、こうやって私立保育園の保護者代表ということで委員に選ばれていたということがあったが、おそらく議論をやっていると非常に力が入って

るので、いろいろ失礼な段も実際にあったと、それは申しわけないと思っているんだが、少なくともこの半年間しっかり力だけは注いできたというつもりではおる。こういう機会があったがために、やっぱりほんとうに普通以上に真剣に、保育とか行政の問題とか、あるいは、自分が実際通っていない幼稚園とかのことであったり、やっぱり一緒に考えていくことができる機会があったというのはすごく大きなことだと思っている。

率直に言って、半年でほんとうに答申がまとまるんだらうかというのは当初から思っていたのだが、ほんとうに、こんな議論の積み重ね、皆さんの尽力の中で、こういう形のものにやっぱり到達できたことに、正直、非常にほっとしているというところがある。やっぱりせっかくこうやってつくられたものが生かされていくということがすごく大事であるので、もちろんいろんな意見を併記した部分もあるが、同時に、特に質も問題、理念の問題で、かなり共通な見解に立つことができまとまった部分とかがあるから、ぜひその、いわば答申の核心になった部分が、これからの国立市の保育指針とか保育ビジョンとかそういうものをつくっていく上で、ほんとうに核心になるものとして役立てていただけることを強く希望している。

それから、最後に、審議会の中で、どうしても短い期間ということもあって、それぞれの現場の実情を把握する機会やっぱりなかなか多くなかったということがあるし、その点での不十分さと思われるもの、見えてきたものもあると思うが、ぜひこういうことを機会に、より直接的にそれぞれの施設間の交流が図られ、なおかつ、現場の実情がやっぱりしっかりわかっていく、把握されていくと、そういうことが積み重ねられていくといいなというのか、強く希望して、終わりにしたいと思っている。ありがとう。

**【会長】** ありがとう。

**【委員】** 私がここに出席するに至っては、やはり子どもを保育してもらいながらということで、今も隣の部屋で子ども2人の保育をお願いしている。家でも、審議会の準備だとかをやって深夜まで作業したりとか、3連休に子どもを公園にも連れて行ってあげられなかったなとか、ほんとうに子どもには負担をかけたなと思っているが、やっぱりほんとうに子どもにとってよりよい環境で保育を受けさせたいという、親の思いという面でやってきた。

今、国レベルで保育の問題がいろいろ変わってきていて、やっぱり親としても不安もすごくある。ここで議論されたことを、子どもにとってという視点で、やはり行政の方にも今後、行政の中に生かしていただきたいと強く思う。テーマがすごくたくさんあって、話し切れなかったこともやっぱりあると思う。一つ一つをやっぱり深め切れなかったということもあると思うので、この審議会を踏まえて、またもっとういうことを話したほうがいいというようなことを、先ほどから、もっと話す場があればというようなことであったが、やはり年に何回かでも、幼稚園、保育園が交流を持ちながら、国立の保育の問題も考えていける場が継続してやって、つくって、話し合いを続けていったらなとほんとうに強く思った。

ほんとうにこの審議会に参加しながら、私自身も保育というものを改めて考える場

があった。ほんとうに緊張の連続だったりもしたが、半年間出させていただいて、よかったと思っている。ありがとう。

**【会長】** どうもありがとう。

**【委員】** まず、会長に、このように私どもの意見をほんとうに十分に取り入れた答申をお出しいただいたことに感謝申し上げる。

それと、事務局の方が、今日も私、この答申案、間に合わないからといって、一軒一軒持って歩いてくれた。当たり前と言ってしまうとそれまでのことだが。そして、これを読んでおったら、濃いところと薄いところがあって、最初、「えっ？」と思って見ていたら、今日、今までのものの訂正の部分を薄く書いてくださっていて、私どもが今、委員長、ここが訂正であるというときにも非常にわかりよく我々がチェックできて、事務局は何もおっしゃることのできないお立場なのかと思うが、そういうところをととても心配りをしてこの会議に臨んでいただいたということが、いかにも保育審議会の事務局だなと。

我々は子どもたちのことを考える審議会なので、やっぱり国にも言わなければならないこともあり、都にも言わなければならないこともあり、厳しい意見がたくさん出たが、皆様が基本的にはやさしい気持ちでこの審議회를最後まで終わらせていただいたことは、このメンバーがととてもすばらしい生き方をなさられてきた皆様なんだなということを感じている。

とにかく、私が多分、一番おばあちゃん役で、あとはみんな、息子だったり、兄弟だったり、孫だったりという、何か見ているとそういう感じがして、個人的にはほんとうにいいお勉強をさせていただいた。これから、まだ少し、もろもろの会議にも私も出なければならないことがあるかと思うが、お若い方の前向きなはつらつとした、子どもを思う気持ちが、私には大変に、もうかなり前のことだったので、この審議会に出させていただいてとても新鮮に感じたし、もう一度、そういうことも真剣に考えていかなければいけないと。何かの折にもそういう気持ちでもってほかの会議にも出て、国立市の子どもたちがほんとうにいい育ち方ができるようにと、ほかの会議に出ても心がけて臨んでいきたいと思っておる。

ほんとうにいい会に出席させていただいたことを心から御礼申し上げます。そして、会長にもほんとうにありがとう。以上である。

**【委員】** 私も皆さんと同じような感想である。ただ、私の場合、財政という、皆さんからちょっと遠い世界のことかもしれないが、専門にして勉強してきたもので、また、保育の問題についても財政の観点から見るということをずっと続けてきたために、ここで随分違う意見、方向性をお示しさせていただくことになったかと思うが、その中でも耳を傾けていただけたのがほんとうに私としてはうれしかった。違う意見ということで、私もちょっと熱くなって失礼なことを申し上げたかもしれないが、お許しいただければと思う。ただ、最後は、民主主義の根底にあるものだが、少数の意見であっても、それを尊重していただく、それはこの答申の中でもずっと基本となっている考え方だと思うが、そういうものをずっと維持していただけたというのは、ほんとうに感謝している。

私自身も、議論の中で、ほんとうに現場の方々、子どもに近いの方々、子どものことをほんとうに真剣に考えていらっしゃる皆様のご意見を伺って、学ぶことがほんとうにたくさんあった。その点は改めて皆さんに感謝申し上げます。ただ、私自身も根っこにある気持ちは、国立の子どもたちに元気になってほしい、いい保育を受けてほしいというところにあるし、大切にされてほしいという気持ちがあるし、それともう一つつけ加えさせていただくと、子育てをしている若い世代にも、「国立市はいい市だよ」と言ってもらえるような、そういう保育行政のあり方になってほしいなという気持ちはずっとあった。

特に女性が子育てか仕事かという選択を強いられるのではなくて、そういう方々が社会でも活躍してもらって、そういう社会の基盤になるインフラを国立市でもぜひつくっていただければという気持ちで、ちょっと方向性は皆さんと違ったかもしれない、方向性は違ったかもしれないが、気持ちはそういうところにあったということをご理解いただけると大変ありがたいなと思っている。

最後になったが、私も会長へのお礼を申し上げて、最後のごあいさつとさせていただきたいと思う。特に、私も含めて、国立市民なので、議論が沸騰しても、少しぐらい会議が遅くなっても、国立市のことだからという思いで、まあ、しょうがない、よし、やろうという気持ちがあるんだが、会長は国立市民じゃないのにおつき合いいただいて、ほんとうに大変申しわけなく思うと同時に、私たちの議論を支えていただいた、お人柄というか、見識に対して、改めて感謝申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。どうもありがとう。

**【会長】** どうもありがとう。

じゃ、私も最後に感想だが、国立市というのは非常に小さな市なわけだが、そこであり得る問題、あるいは実態、幼稚園、保育園、さらにその周辺、いろいろなところの情報をここで出していただいてということで非常に勉強になった。

このところ、私は国の施策等にかかわることが多いんだが、そうすると、話が1兆円とか5,000億とか、そういった大ざっぱな話になるんだが、それはそれでももちろん大事なんだが、どうも地域のイメージが消える危険は大いにあるわけだが、改めて、ほんとうに、国立という中でどうしたらいいのかということを考えることができ、それは非常によかったように思う。

もちろん保育の質をしっかりとしたものにしたいたいというのが私の願いだが、しかし、いろいろな情報、実状を知れば、例えば保育所に入れないでいるお子さんに対してどうしたらいいのかという難しい問題があるし、それから、財政事情は私も専門でも何でもないのでよくわからないが、すべてをビシッとした保育所でやることの難しいさも十分わかった。

そういう意味で、1案できれいな答申にならなかったのは残念ではあるが、少なくとも国立市の市民の方々がこれから幼保の問題を考える上での基本的な論点とか、ベースとなる情報はおおむね出せたように思うので、審議会自体はこれで終わりだが、できれば、来年度以降、これをベースに、じゃ、どうするんだという具体的な議論の場をぜひ設けながら、国立市の方向を皆さん方というか、ここにいる方を含めて、国

立全部でお考えいただくと、我々の議論が少しは実りのあるものになるかなと思っているところである。

ちなみにというか、あんまり関係ないが、ちょうどこの答申の作業と並行して、いろいろな年度末の仕事をやっていたわけだが、実を言うと、それにぶつかって、今、国のほうで、幼保一体化というのをやっている。そこでやっているのは、大臣と政務官が議論しているんだが、そこに何人かの人間がヒアリングで呼ばれていた。私は先週やってきた。その準備とこれが重なったので、まあ、同じような話ではあるが、非常にしんどかった。

そちらのほうは、4月にも案が出るということらしいが、どうなるかちょっとわからないが、そこでも、私としては、保育の質を保つという方向で一生懸命話したつもりである。ただ、国はほんとうに財政が厳しいわけだから、どうされるか私はわからないが、そういう国の大きな方向とこの国立市という市の目指すところがどうつながるかわからないが、どちらにとっても意味があることが出てくるといいなと期待して、ごあいさつとさせていただく。どうもありがとう。

終わりとさせていただく。どうもお世話になった。

— 了 —